

第2章

事業の実施



事前研修

日本参加青年は令和元年9月20日から25日の期間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて事前研修を行った。期間中は日本参加青年同士が互いを知る場として、自己紹介やプログラムから得たいことなどを共有した。また、ファシリテーター7名との顔合わせや、国連開発計画や国連世界食糧計画での経験がある忍足謙朗

さん、既参加青年で元オリンピックの中村友梨香さん、公益財団法人日本オリンピック委員会のマーケティング委員である三崎富査雄さんの講義も行われた。これらのセッションからディスカッショントピックやリーダーシップ、オリンピック・パラリンピックの世界の現状などの知見を深めた。

外国参加青年の来日

外国参加青年は令和2年1月10日に来日した。翌11日の夕方に開催した歓迎レセプションは日本参加青年と外国参加青年が初めて顔を合わせる機会となった。エジ

プトのNLとニュージーランドのNLがスピーチを行い、これから始まるプログラムへの抱負を全参加青年に述べた。

出航前研修

1月11日から一泊二日で国立オリンピック記念青少年総合センターにて実施した日本参加青年の出航前研修では、NL及びSNL主導で乗船に向けた心構えと意識の統一をし、9月の事前研修から1月までの準備内容

の共有などを行った。筑波大学医学医療系助教授である大井雄一さんから国際交流効果測定調査であるSOC (Sense of Coherence) に関する説明と講義もこの研修中に行われた。

陸上研修 1

1月12日午後から開講式、管理官講話と続き、夕方にはナショナル・リーダー主導のアイスブレイクを経て14日まで国立オリンピック記念青少年総合センターで陸上研修1が行われた。この陸上研修1では、レター・グループ、委員会、コース・ディスカッションでの顔合わせが行われた。1月13日にはリーダーシップセミナー、1月14日にはパラリンピックスポーツの体験を行い、参加青年は今年開催される東京オリンピック・パラリン

ピックへ意識を向けた。また、14日には大塚拓内閣府副大臣が駆けつけ、参加青年に対して激励の言葉を述べた。

1月15日に横浜へ移動し、にっぽん丸に乗船した。16日には、船上でオープンシップ（船内見学会）と出航式を行い、16時に横浜港大さん橋国際客船ターミナルを出航した。

1 リーダーシップセミナー

1月13日の午後、参加青年全員を対象としたリーダーシップセミナーが開催された。講師のルイスさんは mymizu というペットボトル削減を目指した無料で給水できる場所を探せるアプリの創作者の一人。このセミナーを通し、ルイスさんが持つリーダー像について触れると同時に、様々な分野で活躍するリーダーが持つ、情熱、謙遜、対話力、知識、誠実さなどを紹介した。参加青年はその話を受けてそれぞれが尊敬する人物

とその理由を全体でシェアし、互いにどのようなリーダー像を持っているのかを発見した。また、リーダーに必要な素質を書き出すワークを個人及びペアで行ったり、自分がリーダーシップを取りたい社会問題や環境問題について話し合ったりすることにより、リーダーシップについて共有するだけでなく、自分が関心を持っている分野について周りの参加青年と共有することができた。

2 オリンピック・パラリンピック競技体験

1月14日の午後、体育館にて全参加青年が参加したオリンピック・パラリンピック競技体験が行われ、講師として一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会の会長である斎藤利之さんをお招きした。まずはレター・グループに分かれてオリンピックとパラリンピックについてのクイズを行った。次にブラインドウォークやドッジビーというソフトディスクを使用して行うドッジボール形式のゲームを体験した。特にドッジビーでは、自分が投げ続けるだけでなく、チームメイトにも渡すなど、他の人のことを常に考えて

行動するというスポーツマンシップについても学ぶ機会となった。最後に、リオオリンピック・パラリンピックで日本選手が使用したハイパフォーマンス施設の説明ビデオを鑑賞し、オリンピック参加をめぐる平等性やパフォーマンスのクオリティーなど参加青年同士が議論する場も設けられた。

この講義を通して、参加青年たちは馴染みのなかった競技を体験し、オリンピックとパラリンピックを身近に感じることができた。

船上研修

1月15日から実施した船上研修では、次に記述する多種多様な活動を通し、参加青年同士が交流を図った。研修中の活動は主に各委員会に所属する参加青年が中心となり、企画及び運営を行った。各研修を企画運営した委員からのコメント及び研修に参加したアドバイザー委員からのコメントを各項目の最後に示す。

今年度は2月17日に東京（晴海客船ターミナル）に

帰港する予定だったが、16日の深夜から房総半島沖及び三浦半島沖付近で低気圧による高波とうねりが発生したため、安全性を考慮し、18日に東京に帰港することとなった。到着後、陸上研修2のため、参加青年はオリンピック・パラリンピック競技会場視察の後、国立オリンピック記念青少年総合センターに移動した。

コース・ディスカッション ※陸上研修1でコース・ディスカッション別顔合わせを行った

コース・ディスカッションは「青年の社会貢献」を共通のテーマとし、多様なバックグラウンドを持つファシリテーターたちにより、七つのコースが実施された。参加青年はファシリテーター主導の下、各分野に関するワークショップやディスカッション、発表を行い、参加

青年自身の国や地域について理解を深めるとともに、他の参加青年や参加国について学んだ。5回のセッションを通して、参加青年が自ら行う社会課題解決のための取組を見つけ、その実現に向けた具体的な計画を組み立てることをねらいとした。

1) 文化遺産の保護コース

ファシリテーター：

参加青年：31名（日本参加青年17名、外国参加青年14名）

1. コース概要

本コースの主な目標は、文化遺産の価値や重要性を個人、コミュニティ、また国家の視点から考察し、この分野における参加青年の意識を向上させることである。参加青年は、コース・ディスカッションで社会問題や課題を学び、リーダーシップスキルを最大限に発揮させて問題解決に貢献することができるようになるであろう。

2. コースのねらい

「文化遺産の保護コース」が終了するまでに、参加青年は以下のような能力を身に付けることが期待される。

- ① 文化遺産の保護の定義を理解する
- ② 文化遺産の保護分野における現状や課題、問題を理解する
- ③ 有形文化遺産や無形文化遺産、先住民の文化と文化産業について発表し、議論する
- ④ 各国における文化遺産保護の取組を紹介し、説明する
- ⑤ 文化遺産をよりよく保存するために個人または組織や団体で行う取組を考える
- ⑥ 文化遺産に関する事後活動について議論する

3. セッション概要

セッション1：文化と遺産	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化と遺産、文化遺産それぞれの定義を理解する ■ 異なる種類の遺産の違いを理解する ■ 文化遺産とその保護に関する意見を発表する ■ 文化遺産の保護における課題や問題を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化、遺産、文化遺産それぞれの概念を議論し、発表する ■ 様々な種類の遺産を列挙し、議論する ■ グループワーク：文化遺産とその保護に関する意見を交換する ■ グループワーク：文化遺産とその保護における問題に関するディスカッション ■ 参加国が抱える文化遺産に関連した課題をグループごとに発表する
セッション2：有形文化遺産	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 有形文化遺産の定義を理解する ■ 有形文化遺産の様々な種類の違いを理解する ■ UNESCO や世界遺産の協定を習熟する ■ 古代と現代の世界7 不思議について学ぶ ■ 参加国が有するユネスコ世界遺産を知る ■ 有形文化遺産を取り巻く課題の例を挙げ、説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスカッション：有形文化遺産について ■ 講義：有形文化遺産の種類について ■ 講義：ユネスコの役割と世界遺産協定について ■ 講義：古代・現代の世界7 不思議について ■ 参加青年の発表：各国のユネスコ世界遺産について（「ベチャクチャ」と呼ばれる発表方法を用いて） ■ グループワーク：有形文化遺産を取り巻く課題について ■ 各国の文化遺産について参加青年による発表と実演
セッション3：無形文化遺産	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 無形文化遺産の定義を理解する ■ 無形文化遺産の様々な種類の違いを理解する ■ 無形文化遺産の保全に関するユネスコの協定を知る ■ 人間国宝とその制度を理解する ■ 無形文化遺産の課題の例を挙げ、説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスカッション：無形文化遺産について ■ 講義：無形文化遺産の様々な種類について ■ 無形文化遺産の実演 ■ 講義と振り返り：無形文化遺産保護に関するユネスコの協定について ■ 参加青年による発表：各国の無形文化遺産に関して（「ベチャクチャ」と呼ばれる発表方法を用いて） ■ 講義：人間国宝の制度について ■ グループワーク：参加国が有する無形文化遺産の課題や問題を考える
セッション4：先住民族	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 他国と自国の先住民とその文化を理解する ■ 参加国が有する先住民族について発表する ■ 先住民族とその文化が抱える課題の例を挙げ、説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：世界の先住民族と文化 ■ 参加青年による各国の発表：異なる先住民と文化的なコミュニティの紹介 ■ グループワーク：先住民族が抱える課題を理解する ■ 参加青年による発表：先住民族が抱える課題について
セッション5：文化産業と事後活動	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ クリエイティブ産業や文化産業、クリエイティブシティの定義を知る ■ 参加各国における文化遺産保護の取組を理解する ■ 自国で行う文化遺産の保護に関する事後活動を提案する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：クリエイティブ経済、文化産業とクリエイティブシティについて ■ ディスカッションと発表：参加国における文化遺産保護の取組について ■ グループワーク：文化遺産の保護とその課題解決に関連した事後活動を計画する

4. ファシリテーターのコメント

文化遺産は社会的な生活において最も重要である。青年たちは文化遺産を保護し、次世代に継承する重要な役割を担っており、文化遺産保護を促進する上では欠かせない。「文化遺産の保護コース」のほとんどの参加青年は、芸術・文化的活動に意欲的に参加していたため、テーマに関する知識や経験、考えを共有し合い、活動計画を立てるなど学びの多いコースとなった。サマリー・フォーラムにおける各グループの発表ではその成果が十分に表れていた。

本コースでは、文化遺産の保護の概念や、有形文化遺産、無形文化遺産、先住民族、文化産業、これらに関連する事後活動に重点を置いていた。日本参加青年は、事前研修から陸上・船上研修にかけて、日本の文化遺産を紹介しつつ、フィリピンの先住民であるマンギャン族な

どについて学んだ。これにより青年による国際的な文化遺産の保護活動について網羅することができた。日本参加青年と外国参加青年は、各国により行われたナショナル・プレゼンテーションについてコース・ディスカッションで振り返り、意見交換を行うことで、参加国が有する多くの文化遺産について理解を深めることができた。また、参加各国が有する神話や伝承についての議論を行い、世界遺産である首里城において最近発生した火災に関しても触れた。

給油地ハワイでの経験や、寄港地エンセナーダでの訪問先の様子を振り返る時間を設けた。特にバハ・カリフォルニア州の先住民族、パ・イバイ族の人々について議論した。本コースにおける大多数の参加青年が、文化遺産保護の促進や本事業の発展に向け、個人または協同で事後活動に取り組む意欲を示している。

2) グローバル・シティズンシップコース

副題：すばらしいグローバルリーダーやグローバル・シティズンになるために求められる素質やスキルは何か。どのようにして世界に変化をもたらすことができるか。

ファシリテーター：

参加青年：31名（日本参加青年17名、外国参加青年14名）

1. コース概要

本コースは、社会に前向きな変化をもたらす、よりよい世界づくりに貢献する上で求められる知識やスキルを探求し、向上させ、内省することを目標とする。これらを実践することで、グローバル・シティズンに欠かせない素質や能力、スキルを習得することが可能になる。参加青年は、本事業の中でのコミュニティを世界の縮図として捉え、オープン・ディスカッションや討論などに参加する。これらを通じて、批判的思考を身に付け、自己を客観的に振り返ることで、自身が持つ価値観に気づき、習得したいスキルを認識できるようになるであろう。

2. コースのねらい

本コースの目的は、参加青年が発表や講義、グループワーク、討論を通じて、「グローバル・シティズン」になる為に必要なプロセスやスキル、知識、経験を理解・分析し、定義付ける能力を習得することである。参加青年同士が船内生活で互いに交流し、学び合う中で得た知識や経験を評価し実践していくことで、今後の人生をより豊かにし、「グローバル・シティズン」の普遍的価値をより深く理解することが可能になる。

3. セッション概要

セッション1：文化が交差する環境において多角的に洞察する	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 本コースの目標と目的を共有する ■ 安心できる環境づくりとチームビルディング ■ 異文化コミュニケーションの基本的概念を理解する ■ 船内生活で起きうる異文化コミュニケーションに関する問題を認識し、洞察する力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本コースの概要を紹介した後、参加青年が期待や思いを共有し、安心して意見交換ができるようチームビルディングを図る ■ グループワーク：アクティビティを通じたチームビルディング ■ 短い講義：異文化コミュニケーションにおける課題 ■ グループワーク：異文化で生じる問題についてのディスカッション ■ 上記の議題を船内生活に置き換えて考察する ■ 船内で起きうる異文化間の課題を理解する

セッション2：絶え間なく変化する世界において変わるリーダーシップの在り方	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ トランスアクションル・リーダーシップとトランスフォーマティブ・リーダーシップの違いを理解する ■ トランスフォーマティブ・リーダーに必要な特質を理解する ■ 各国における現リーダーがどんな素質を有しているか、また人々にどう見なされているかを考察する ■ 本事業において個人が発揮し得るリーダーシップを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短い講義：トランスフォーマティブ・リーダーシップの理論 ■ グループディスカッション：トランスフォーマティブ・リーダーに求められる特有の素養やスキルとは何か ■ ディスカッション：世界各国において現リーダーがどのような素質を持っているか ■ブレインストーミング：どのようにしてトランスフォーマティブ・リーダーになるか ■ 本事業においてより良いリーダーとなる為のアイデアを出す ■ 本事業で見られるリーダーシップの在り方と改善点を議論する
セッション3：私たちにできることは	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の地球的規模の課題を議論する ■ 参加青年が自国の地球的規模の課題について共有すると同時に、他国の様々な取組を学ぶ ■ より良い社会づくりと変革に向けて本プログラムをどう活用できるか議論する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスカッション：各国における地球的規模の課題の原因や背景、解決策について ■ 上記の議題に関するグループワーク ■ブレインストーミング：参加青年が本事業での経験を活かし、問題解決に向けてどう実践できるかについて(事後活動、仕事、プロジェクト、団体運営など) ■ グループワーク：上記についてグループごとにポスターを作成し、発表する
セッション4：ソーシャルメディアの役割と影響とは	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現代社会におけるソーシャルメディアの利点と欠点を議論する ■ ソーシャルメディアにおいて影響力を持つヒト・モノを理解する ■ ソーシャルメディアが前向きな社会変革において重要である理由を考察する ■ その他メディアと比較し、ソーシャルメディアが持ちうる影響力を理解する ■ ソーシャルメディアが各国で利用されている背景を学ぶ ■ 青年自身がソーシャルメディアをより良い社会づくりに活用する実践的な方法を確立させる ■ ソーシャルメディアを国や団体、本プログラム、ブランド等の広報に活用する戦略を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：ソーシャルメディアと影響力を持つヒトやモノについて ■ グループディスカッション：様々なソーシャルメディアが各国で人気を持つ理由について ■ブレインストーミング：社会をより良くするために青年がどうソーシャルメディアを有効に活用できるか ■ グループディスカッション：青年自身が自国全体や団体、そして本プログラムのイメージ向上にソーシャルメディアをどう役立てるかについて
セッション5：真のリーダーシップについて、本コースの最終振り返り	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々なリーダーシップの在り方とソフトスキルとの関連を理解する ■ 本コースを振り返り、評価を共有する ■ 参加青年同士が成長した点や過去4週間に向上した点について互いにフィードバックする ■ 外国参加青年と日本参加青年それぞれが持つ本コースでの学びや価値観を比較する ■ サマリー・フォーラムの計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップと環境に関する「TED Talk」の動画を視聴する ■ グループディスカッション：上記の動画とトランスフォーマティブ・リーダーシップ理論の関連性 ■ 二つのグループに分かれ、外国参加青年は英語で、日本参加青年は日本語で本コース全体における学びについて議論する ■ 参加青年全体で、グローバル・シティズンとは何か、本コースで得た価値観について意見交換する ■ サマリー・フォーラムの発表に向けて準備をする

4. ファシリテーターのコメント

異文化コミュニケーションを議題とした第1回目のセッションでは、参加青年全員が積極的に活動に参加した。参加青年の中には、異文化コミュニケーションに関する知識が豊かな青年もいたが、大多数の青年がそうではなかった。私は、本事業の船上研修で参加青年がより成長するためには、より多くの知識や異文化コミュニケーションの問題に触れる経験が必要だと考える。これは特に日本参加青年に当てはまることであるが、外国参加青年にとっても同様である。

第2回目のセッションでは、まずリーダーシップの模範を見つける重要性について議論した。その後、ディスカッションで自己の実践や思考を振り返り、オブラ・ウィンプリーによる動画、「偽りのない真の自分になること」を視聴した。また、第1回目の議題の一つであったソフトスキルの重要性に関連して、トランスフォーメーション・リーダーシップの概念にも触れた。ここでは、トランスアクション・リーダーシップとトランスフォーメーション・リーダーシップを区別することに重点を置いた。その後も最初の議題であった自己の振り返りを続け、幸福な人生を送るうえで重要である感謝をするということについてグループで意見交換をした。最後に各グループから全体へ共有し、学びを深めた。

第3回目のセッションにおいては、参加青年の出身国における地球的規模の課題や社会問題の具体的な例を議

題とした。近い将来においてこれらの課題を解決するために必要な具体策を小グループごとに議論した。最後には、参加青年全員が課題と解決策を列挙した紙を提出するなど積極的な様子が見られた。

第4回目のセッションでは、様々なソーシャルメディアを考察し、ソーシャルメディアを活用し、影響力を持つことがいかに重要であるか、また、いかにグローバル・シティズンやグローバルリーダーとなる為にそれが不可欠であるかを学んだ。グループごとのディスカッションやポスターの作成と発表において、参加青年は生き生きと参加している様子が見られた。このセッションの主な目的は本事業終了後の事後活動や仕事等においてソーシャルメディアを利用する方法を考えることであった。最後のポスター作製と発表の際には、様々な異なる考えが共有された。

最後のセッションでは、様々なリーダーシップの在り方について議論した。“TED Talk”のサイモン・シネックによる信頼と協力に関する動画を視聴し、より良いチーム環境づくりがいかにリーダーとそうでない人の人間関係向上に役立つかを学んだ。見返りや報酬でなく本質的で感情的な結び付きこそが、真に良好な絆を構築することができる。このことを踏まえてトランスフォーメーション・リーダーシップについて議論し、最後には日本参加青年と外国参加青年がそれぞれのグループに分かれて振り返りを行い、また全体で意見を交換した。

3) 地球環境と気候変動コース

副題：行動と変化のためのツールを磨く

ファシリテーター：

参加青年：33名（日本参加青年16名、外国参加青年17名）

1. コース概要

若者による活動は、環境問題や気候変動に対する取組の中心である。今日、グreta・トゥーンベリによる活動や「Fridays For Future（未来のための金曜日）」運動を始めとして、若者が環境問題への性急な対応を求める運動が世界中で高まり、若者の活躍が注目を浴びることとなった。本コースの参加青年は、参加型のディスカッションやゲームを通じ、環境問題や社会課題について理解を深めた。それだけでなく、地域や国レベルの課題に立ち向かう上で重要な意思決定、統制の枠組み、そして啓発活動の在り方を分析・評価した。

2. コースのねらい

本コースでは、環境や気候問題に積極的に取り組む若い活動家を育成するために以下の項目を念頭に置いた。

- ① 地域から国レベルまで、広範囲の環境問題を理解すること
- ② 政治や経済、社会、環境における意思決定者に対する批判的思考をより広げること
- ③ 社会課題や環境問題に取り組む上で啓発するスキルや手段を身に付けること

3. セッション概要

セッション1: 気候変動懐疑主義からグローバルアクションへ	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスカッションや対話などを通じて参加青年同士が互いを知り、協同する場を作る ■ 本コースにおけるねらいと、テーマに関する主な社会課題や環境問題の概要を知る ■ 地球的な規模の課題について積極的に学び、いかに若者のアクションが変化の担い手となっているかを理解する ■ 社会における喫緊の目標としての「持続可能な開発目標 (SDGs)」に取り組む ■ 意識向上、また協同プロジェクトの一環として船上研修中に行う実践的な取組を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本参加青年による発表:「クライメイト・リアリティ (気候変動の真実)」 <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化を起こすべきか 2. 変化を起こすことができるか 3. 変化を起こすのか ■ グループワーク: 事前課題①と②を基にチームビルディングのためのディスカッション ■ 共通する将来の改善点や学び <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候変動に懐疑的な主張や意見とは 2. 気候変動の背景にある基礎的な事実とは ■ 導入:「エコロジカル・フットプリント (自然環境の総消費量)」の概念と経済成長の限界、過剰な消費とそれらが個人や社会に与える影響 ■ 導入: 地球規模の課題 <ol style="list-style-type: none"> 1. プラスチック問題: 本プログラムの航路と関連している「太平洋ゴミベルト」問題の深刻さとは 2. 生物多様性と生態系: 生物多様性喪失の暗示と国際社会における目標について 3. パリ協定、持続可能な開発目標 (SDGs) と気候非常事態宣言 4. 船上における啓発プロジェクト: 私たちはどのような資源を利用しているのか (にっぽん丸乗船中の一人当たり、または全体の消費量/一人当たりの水の消費量/ごみの排出量/航海にかかる燃料)
セッション2: 環境問題を取り巻く議論の衝突と正義	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 政治や経済、社会、環境問題における意思決定者やその背景への批判的な思考を養う ■ 環境や社会問題に関する国際的な議論の衝突の実例を学ぶ ■ 環境問題に関する対立を起こしている人や出来事を理解する ■ 環境課題に奮闘するアクターやその主張、抗議運動の様々な手段を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境をめぐる対立とは何か <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域固有の出来事か、それとも世界規模で共通している現象か 2. 「エンバイロメンタル・ジャスティス・アトラス」の紹介 http://www.envjustice.org/ (環境正義を訴える運動) ■ ディスカッション: どのような対立が起きているか。自然資源へのアクセスが不平等、又環境汚染の責任分担が不当であるという事実に関連付けて学ぶ (事前課題③を発表する) ■ 多様な視点や人々、先住民や地域住民の知識の重要性に焦点を当てる ■ グループワーク: 私たちはどのようなアクターと関わるべきか。私たちと同じ立場を持つ政治家やビジネスにおける主導者、市民団体、先住民やコミュニティを含めた様々な意思決定者を表すアクターマップを作る ■ 船上における啓発運動に向けて、船長へ手紙を書く
セッション3: 環境とガバナンス	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然資源管理やコモンスに代表される環境におけるガバナンスの基礎概念を振り返る ■ 意思決定における個人の役割を理解し、集団の持つ影響力を強化する ■ コミュニケーションや調整を行うことが集団での意思決定においてどのような役割を持ち、また社会や環境全体へどのような影響をもたらすかを認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 導入:「コモンス」の悲劇と加害者が抱えるジレンマ、外部不経済、インセンティブと関係機関について ■ アクティビティ:「コモン・プール・リソースゲーム」(J.C. カルデナス、M. ジャンセン、F. プースケット、2013年) 二つの大きなグループ、また五つの小グループに分かれる <ol style="list-style-type: none"> 1. 「フォレスト・ゲーム」 2. 「イリゲーション・ゲーム」 * 「コモン・プール・リソースゲーム」とは、自然資源や環境問題において、異なるインセンティブや機関によってどのような意思決定が行われるかを再現するゲームである。不確実性が高く、環境外部性のような問題に直面した際、個人がどのような行動をとり、それが取組の結果にどう影響するかを学ぶ。

セッション4：国際条約、国際機関と変革者	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 近年の気候問題解決に向けた交渉やそのアクターの動きを追う ■ 気候変動緩和に向けた取組や交渉における様々なアクターの役割と重要性を学ぶ ■ ロールプレイを行い、気候変動に立ち向かう変革者の立場や行動をさらに理解する ■ 対話を基にしたコミュニケーションスキルを養う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 振り返り：メキシコにおける環境問題 ■ 気候変動ゲーム（気候変動バスク・センター（BC3）制作）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 気候ゲームとはロールプレイゲームの一つであり、参加青年はいくつかのグループに分かれる。各グループは、気候問題における交渉の中心的な国や国際機関を代表する。 2. 各国の代表者は権利を売買し、気候変動緩和策を打ち出す 3. グループが代表する国や団体、機関の名前（例：欧州連合、小さな島国など）が記された紙を受け取り、気候問題における「交渉ゲーム」で生き残る術を学ぶ。
セッション5：変化を起こす－エンパワーメントと表現方法	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 芸術から科学まで様々な異なるコミュニケーションの手段について意識を向上させる ■ 気候変動問題における独自の表現方法や芸術的表現を考え、多角的に解釈する ■ 参加青年自らが取り組むエンパワーメントや変革の手段について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発表：事前課題④一言語連想法などを用い、芸術的な発想を取り入れて気候変動の問題解決に取り組む ■ ドキュメンタリーの上映：ジョン・アコムフラーによる「パープル」というインタビューの視聴とディスカッション ■ 草の根運動、社会活動、トランジション・タウン（持続可能な社会へ移行するための市民活動）など、様々な規模の活動を知る ■ 本コースの学びの成果を発表するサマリー・フォーラムに向けた準備と船上で行った啓発プロジェクトの報告

4. ファシリテーターのコメント

より持続可能で居住し続けられるような公正な未来の実現に向け、若者は変化を起こす担い手である。したがって、本コース・ディスカッションは、地球的な規模の課題と気候変動に焦点を当て、青年たちへより早く行動を起こすよう啓発し、変革に必要な手段を提供する、という二つの要素を目的とした。

初回のコースの冒頭では、日本参加青年が2019年10月に参加した「クライメイト・リアリティ・プロジェクト」について発表した。気候変動の基礎を紹介し、私たちが変革の主導者となり得るといことについて意見交換をした。本プログラムでは船で太平洋を通過し、「太平洋ゴミベルト」と呼ばれる海域の近くを航行していたことから、地球規模のプラスチック問題について議論した。この「太平洋ゴミベルト」とは、太平洋上で浮遊プラスチックのゴミが集中した海域を指し、その規模はドイツ国土の4.5倍ともいわれている。さらに、エコロジカル・フットプリント（自然環境の総消費量）と呼ばれる指標を基に、人間が地球にどれくらいの影響をもたらしているか、また自然資源に関する選択肢がどうして人により異なるのかを考えた。私たちとこの地球の関係性が脆弱なものであることを念頭に置き、より前向きな行動へのスタート地点として捉えた。

本コースを構成する上で最も重要な要素の一つは、船上研修中に環境問題への啓発プロジェクトを実施し、本プログラムを行う上で生じる環境への負荷を考え、行動を起こすことであった。第2回目のセッションでは、参

加青年が船長宛てに手紙を書き、食料や水の消費とその後の処理について、また燃料の消費や船内の施設等の質問を送った。参加青年は2週間後に船長から返事を受け取り、質問の回答を基に船内生活が環境などに与える影響を動画にまとめた（動画はサマリー・フォーラムにおいて上映された）。船長からの返答により、様々な事実が判明した。例えば、にっぽん丸は近年使用する軽油燃料を硫黄濃度が0.5%以下のものへと切り替えた。また本事業中に私たちが毎食30～50キログラムの食料廃棄を発生させていたことはご存じだろうか。さらに、1日の電気代が約5000ドルに上り、そのうち12%が空調に使用されていたことなどがこの手紙から明らかになった。

第2回目のセッションにおいては、参加青年それぞれが自国の地域における環境問題を共有し、そのアクターを示す地図を作った。これにより、どのようにして気候正義や環境問題、エネルギー問題などの課題がより包括的な社会問題へ繋がっているかを理解した。

環境問題の起源について学んだ後、第3回目と第4回目のセッションでは、環境問題における意思決定と各国交渉をテーマとした。第3回目のセッションの中で、空気や海、野生生物など私たちが共有している公的な自然資源である「コモンズ」の管理に焦点を当てた。ノーベル経済学賞を受賞したエリノア・オストロムの理論を受け、将来何世代にもわたり自然と共生できるような管理の在り方について学んだ。それに関連して、体験型のゲームを二つ実施し、その一つは、再生可能エネルギーの資

源として木々を伐採する上で生じる森林問題を考え、意思決定を行う「フォレスト・ゲーム」であった。もう一つは、農地の灌漑システム維持費への投資と灌漑に必要な水を抽出するためにどのような計画を実行すべきかを考える「イリゲーション・ゲーム」である。

メキシコにおける寄港地活動においても、このゲームと関連するところがあった。バハ・カリフォルニア州の地域で固有のコガシラネズミルカという海洋哺乳類があり、ゲームの内容にも似た例が登場したが、この生物は地域社会の管理の欠如や受益者であるアクターの対立が原因で絶滅の危機に瀕している。また寄港地活動中には、「イリゲーション・ゲーム」での学びと共通して、米国とメキシコ間で問題となっているコロラド川の上流と下流の水利用についても聞くことができた。

第4回目のセッションでは、ロールプレイのアクティビティを実施した。参加青年が幾つかのグループに分かれ、各グループが1か国を代表した。全部で10か国あり、その内訳は、環境技術面で発展している2か国、先進国2か国、石油産出国1か国、急成長を遂げている3か国、気候変動の深刻な被害を受けている2か国で、ファシリテーターである私は国際連合の立場をとり、気候変動の問題に取り組む交渉の仲介役となった。このロールプレイゲームは楽しいと同時に難解であり、異なる関心及び懸念を持つ国が交渉し、合意を形成する難しさを表していた。

4) 多文化共生コース

ファシリテーター：

参加青年：31名（日本参加青年17名、外国参加青年14名）

1. コース概要

社会における排除の現実、大陸ごと、さらには地域や国ごとでも異なるが、すべての人に共通している問題である。世界ではグローバル化、経済危機、金融危機、その他の社会的課題の複合的な影響によって急速な社会的変革が進んでおり、ジェンダー問題、極度の貧困、また排除などにおける不平等の拡大へと繋がっている。したがって本コースでは、参加青年たちが共生社会を重視し、すべての人が平等な機会を得るための親善大使として役割を果たすような市民になるための意欲を高めることを目的とする。

最後のセッションでは、環境問題や気候変動の根本的な課題解決に向けた制度の変革に着目し、個人の行動における変化とシステムにおける変化の狭間にある概念を学んだ。その際、「トランジション・タウン」運動を初めとする影響力の強い社会運動を例に挙げた。この例から、政府による変革が遅いと嘆いたり、或いは個人の力では影響力がないと落胆するよりも、コミュニティ全体で行動を起こすことがいかに重要であるかを理解した。

セッションの冒頭では毎回異なるアクティビティを行い、瞑想や物語をつくるアクティビティ、自然に関連するアート作品をもとに考えるアクティビティなどがあった。その中でも、「ディクシット」というカードゲームを用いることで、参加していた全員が自分自身や互いの気持ちや創造性に触れることができた。また、私たちを取り囲む海や大自然との調和を得ることができたと信じている。セッションの時間と頻度を増やしてほしいという希望はあるが、積極的で好奇心にあふれた参加青年とともに作り上げたこのコース・ディスカッションは、とても充実していた。参加青年は船上研修中既に意欲的に活動を実施し、今年度「世界青年の船」において、気候変動を訴えるストライキ、「フライデー・フォー・フューチャー」運動の掛け声、「ライトヒア・ライトナウ（今すぐに、ここから）」の意味の通り、まさしくこの場所において、世界中から来る参加青年たちへ呼びかけたのである。

2. コースのねらい

- ① 国際社会または地域社会における共生社会の定義と取組について理解を深める
- ② 共生社会について当事者意識を持ち、その実現に向けて積極的役割を果たすための“can-do attitude”（やればできる、めざせば叶う、という姿勢）を身に付ける
- ③ すべての人が尊重され、社会参画できるようになるための異文化コミュニケーション力を磨く
- ④ 積極的に共生社会の実現に取り組む親善大使となるためのスキルを身に付ける

3. セッション概要

セッション1：共生社会の導入	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 排除と共生の定義を理解する ■ 多様性と共生の関係を探求する ■ 参加青年のそれぞれの出身国における共生社会の成功例を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 即興ゲーム：共生社会について楽しく学ぶための即興劇を用いたゲーム ■ アクティビティ（ワールドカフェ）：社会的包摂と排除の様々な側面、基本原則と対策についての小グループでのディスカッション ■ 発表：これまでのアクティビティの要点のまとめ ■ 2分間の発表：各国での成功事例、地域における課題、個人の経験の共有 ■ 振り返り：セッション中のすべてのアクティビティを振り返り、学びを得る
セッション2：「私」から始まる共生社会	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ アクティブシティズンシップに関する専門知識を深める ■ 自らの社会的・政治的な役割を理解し、積極的な取組を促進する ■ 事業の参加青年全体で学びを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスカッション：アクティブシティズンシップの特性を定義するグループワーク ■ 振り返り：自らの社会的・政治的な役割と世界をより良くするための責任を振り返るグループでのアクティビティ ■ 2分間のプレゼンテーション：各国での成功事例、地域における課題、個人の経験の共有 ■ 船上での活動：他のコースの参加青年に対し、本事業における多文化共生への積極的な取組を促進する活動を実施するためのブレインストーミング
セッション3：多文化共生におけるコミュニケーション	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 多文化共生におけるコミュニケーションと異文化コミュニケーションの相違点と共通点について認識を深める ■ 共生社会の実現に向けて影響力のある人材になるためのコミュニケーションスキルを磨く ■ 思いやり、相互理解、対等な考え方を育むための新たなアプローチを導入する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体を動かすワークショップ：異文化コミュニケーションにおける非言語的合図の重要性を認識するための、体を使った簡単なアクティビティ ■ ディスカッション：日常的な交流やインクルーシブコミュニケーションにおける多文化共生を強化するために必要な言語能力および非言語的能力 ■ 2分間のプレゼンテーション：各国での成功事例、地域における課題、個人の経験の共有
セッション4：非暴力コミュニケーションと地球規模の課題	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 当事者意識を持ち、積極的な態度を示す ■ コミュニケーションの対立を成長と学びの機会として利用する ■ 地球規模の問題について話し合い、各国での成功事例から学ぶ ■ 社会的弱者に対し、自分にできる支援を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 被害者/責任のチャート：人生において積極的な姿勢を保つために実際に活用できるツールの紹介 ■ 参加型のプレゼンテーション：非暴力コミュニケーションの基本 ■ 小グループでのディスカッション：それぞれの国で社会的弱者が抱えている地球規模の問題と、その対策やプロジェクトの成功事例について、そういった自国の状況を改善するために自分ができることについてのディスカッション ■ 2分間のプレゼンテーション：各国での成功事例、地域における課題、個人の経験の共有
セッション5：共生社会の親善大使となる	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分自身の明確なビジョンを持ち、目標を掲げる力を身に付ける ■ 自主性を高め、目標に向かって行動できるようになる ■ 自発的にイニシアチブを取れるよう独創的かつ革新的になる ■ 世界に前向きな変化をもたらすための意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2分間のプレゼンテーション：各国での成功事例、地域における課題、個人の経験の共有 ■ アクティビティ（Circle of Creativity）：自国に戻ってからの生活、また事後活動においてイニシアチブを取るための計画づくり ■ アクティビティ（Taking a stand）：これまでに学んだことを活かし、将来のステップへの明確なコミットメントを掲げる活動（全体での発表を含む）

4. ファシリテーターのコメント

共生は「私」から始まる。これが本コースの主旨であり、本コース・ディスカッションでは、参加青年たちが説明責任を果たし、それぞれの地域社会、また国際社会において行動を起こせるような人材になれるようサポートする。そのため、参加青年たちが共生社会や社会的包摂というテーマに対して独自の理解、目標、考え方を持てるようになることに重点を置いた。最初の集まりで、まず参加青年たちに「世界青年の船」事業の船上研修での経験を、多文化共生の実践の場として活用するというコンセプトを伝えた。この事業の参加青年たちは「個人」の集まりであり、本コースのグループは小さな「地域社会」であり、船全体が「国際社会」を表している。5回のセッションと2回の補講セッションを通じて、この「個人レベル」「地域社会レベル」「国際社会レベル」のすべてについての理解を深めることが狙いであった。第1回目のセッションでは、社会的包摂と排除、また文化の多様性の基本的原則を定義することに取り組み、「ワールドカフェ」というアクティビティを通じて参加青年たちの出身国におけるそれぞれの状況について学んだ。参加青年たちは、テーマについての自分の価値観や意見を出し合い、多様な視点からの考え方を共有することができた。

第2回目のセッションでは、主にグローバルリーダーシップに不可欠な要素であるアクティブシティズンシップについてのディスカッションを行った。参加青年たちには、アクティブシティズンシップとは何かということを理解してもらった上で、社会的・政治的な自分の現在の立場について考える機会を与えた。このセッションでは、地域社会に前向きな変化をもたらすために必要な次のステップは何かということ、それぞれの参加青年たちに考えてもらうことを目標とした。第3回目のセッションでは、共生社会実現に向け、日常的な交流において異文化理解力を向上させる手段としてのコミュニケーションに焦点を当てた。まずは言語を用いないアクティビティを行い、その後コミュニケーションにおける類似点と相違点、また他の文化を尊重するための言語の使い方についてのディスカッションを行った。

コースが進むにつれて、参加青年たちから自分たちの国で実際に問題となっている社会的な議題について話したいという声が増えたため、追加の補講と第4回目のセッションにてその議題を取り扱うこととした。補講では、各国における宗教、女性の政治への関与、また学校制度に関する知識や意見を共有した。第4回目のセッションでは二つのグループに分かれ、参加青年たちはそれぞれ興味のあるグループでのアクティビティに参加した。一つのグループは、教育的・経済的・社会的な障害に直面している、いわゆる社会的弱者と呼ばれ

る人々に関するディスカッションを行った。ディスカッションでは主に、彼らの現在の状況について、また各国での対策やプロジェクトの成功事例について、そしてそういった社会から取り残されがちな人々を支援するために自分ができることについて議論した。またもう一方のグループでは、思いやりのあるコミュニケーションの手段としての非暴力的なコミュニケーションについて学び、人生において積極的な姿勢を示すための手段として被害者と説明責任のチャートを取り入れた。

最後のセッションでは、コースで学んだことのまとめとともに、事業が終わってそれぞれの国に戻った後の生活や事後活動においてイニシアチブを取ることができるようになるための個人のビジョンと目標に焦点を当てた。

上記のセッション概要に加えて、参加青年たちには多文化共生社会というテーマに関連する問題点や成功事例、また個人の経験について2分間のプレゼンテーションを作成するよう課題を与えた。これにより、参加青年同士が互いについて学び異文化への理解を深めるプラットフォームを築くことができた。5回のセッションを通して、すべての参加青年がプレゼンテーションを行うことができた。

また参加青年たちには、学んだことを応用するための活動を実際に船内で実践してみるようにと促した。そこで本コースの参加青年たちは、「世界青年の船」事業の参加青年たちが活動に積極的に関わることができているか、またグループにうまく溶け込むことができているか、など彼らが抱えている悩みを分析するための調査を実施した。そして200以上のアンケート結果から集計したデータに基づき、「#YouAreNotAlone（あなたは一人じゃない）」という意識向上キャンペーンを含む一連のイベントを企画した。コース・ディスカッションを全て終了してみても思うことは、出港前の準備にもっと改善できる点があったのではないかということだ。次回は、参加青年たちからどういった内容のコースが求められているのか、また参加青年たちのトピックに関する経験値や言語力などに関する情報を事前にきちんと把握できるようにしておきたい。そうすることで、参加青年たちのニーズに合った、より良いコース・ディスカッションを提供することができるであろう。上記に述べたこと以外では、コース全体を通じて参加青年たちの取組には非常に満足している。彼らはそれぞれのテーマに熱心に向き合ってくれ、このコース・ディスカッションを通じてそれぞれのコミュニティ、そしてグローバル社会に変化をもたらすための次の一步を踏み出す準備を整えることができたに違いない。

5) 健康とウェルビーイングコース

ファシリテーター：

参加青年：28名（日本参加青年14名、外国参加青年14名）

1. コース概要

ポジティブ・メンタルヘルス（単に精神疾患に罹っていない状態ではなく、ストレスにうまく対処し、働き方や社会生活において充実している状態）を扱う本コースでは、若者のリーダーたちの心の健康とウェルビーイングに対するより良い理解と促進に重点を置くこととする。精神疾患についての学術的理解と応用的理解の両方を深めながら、グローバル化と急速な技術変化の時代における心の健康を中心に学んでいく。参加青年は本コースを通じ、心の健康や精神疾患についての知識と理解の向上、またその課題を通じた自己効力感の向上、そしてより健康で幸福な状態（ウェルビーイング）でいるためのスキルを実践することが期待される。またこのコース・ディスカッションが、自分たちの持つリーダーシップを発揮できる場となり、それぞれのコミュニティやオンライン上で活用できる有力なサポートへ目を向けてもらう機会となることを期待したい。また本コースでは、ポジティブ・メンタルヘルスに焦点を当てることで、参加青年たちがそれぞれの個人的な強み、適性、能力に対する認識を高めることも目的としている。

2. コースのねらい

- ① 批判的かつ創造的な思考：参加青年は、様々なリソース（講義、文献、個人研究）からの情報を統合し、青年たちにとって実用的に心の健康を促進することを目的とし、発表やプロジェクトを作成することが推奨される。このプロセスは、探求力、そして創造的かつ批判的思考の発達へと繋がる。
- ② リテラシー：参加青年は文献、グループディスカッション、事前課題、またオンライン上でどのようにして情報を抽出するのかを学ぶ。またオンライン上の資料を批評することにより、参加青年はオンラインで入手可能な膨大な量の心の健康に関する情報を、より慎重に評価する方法を学ぶ。参加青年は、本コースを通じて独自のプロフィールに関する認識の向上はもちろんのこと、心の健康に関するスティグマ研究やリテラシー全般の知識の向上が期待される。
- ③ コミュニケーション：コース・ディスカッションにおいて積極的に発言をすることは参加青年にとって不可欠なことであり、参加青年は船上でのディスカッションを通じて口頭でのコミュニケーションスキルを学ぶ。また本コースでは、文書での課題を提出することを必須としており、課題のフィードバックを通じて文書によるコミュニケーションスキルの向上も期待される。
- ④ 専門的かつ倫理的な行動：心の健康に関する本コースの性質として、参加青年たちは特殊な環境における守秘義務や自己開示の在り方について学び、適用するものとする。

3. セッション概要

セッション1：導入	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 心の健康と精神障害についての基礎知識を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本ルールの設定 ■ 心の健康とは何か、精神障害とは何かについてのディスカッション ■ アクティビティ：アイデンティティ/自分は何者なのか ■ アクティビティ：内省と自己愛
セッション2：精神疾患	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 精神障害についてより深い知識を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な種類の精神障害についてのディスカッション ■ 精神障害についての小グループディスカッション ■ アクティビティ：不安障害 ■ アクティビティ：心の健康を取り巻く問題に関する議論

セッション3：心の健康に役立つ支援やサービス、また良好で親密な人間関係の重要性	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己効力感を高め、精神的ストレスを管理するための様々なサポートや支援機関の存在を知る ■ 心の健康における人と人との良好で親密な繋がりの重要性を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己効力感の向上と、支援へのアクセスについてのディスカッション ■ 個人のアイデンティティについてのディスカッション ■ アクティビティ：心の健康における人と人との良好で親密な繋がりの重要性 ■ アクティビティ：個人の価値観と信念 ■ “Are you OK?” (大丈夫ですか?) という会話についてのディスカッション
セッション4：心の問題に関する社会問題とその支援、また良好で親密な人間関係の重要性	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 心の健康と関連する問題、社会的問題（スティグマ：差別・偏見）をより深く理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アクティビティ：人との繋がりの重要性 – グループでの二人組のシステム ■ 人と人との良好で親密な繋がりと、幸福と心の健康に関するハーバード大学の研究に関するディスカッション ■ アクティビティ：事前課題1のプレゼンテーション（個人） ■ WHO による「メンタルヘルス・アクションプラン」についてのディスカッション ■ 小グループでのディスカッション：心の健康を促すそれぞれの方策に対する評価
セッション5：まとめ	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ セッション1からのディスカッションを振り返る ■ 自らの心の健康状態を向上させるためのプランづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アクティビティ：まとめセッション ■ アクティビティ：事前課題2についてのプレゼンテーション（個人） ■ アクティビティ：船上におけるメンタルヘルス・プロジェクト（船上でのポスター掲示と心の健康についてのディスカッションセッション – 自主活動）

4. ファシリテーターのコメント

心の健康は世界的な課題である。本コースでは、将来のグローバルリーダーたちがメンタルヘルス、またそれに関わる課題に対しての適切な知識を身に付け、より健康で幸福な生き方（ウェルビーイング）を実現するための意識を高めることを目的とした。

本コースの参加青年たちは、すべてのディスカッションセッションにおいて非常に積極的な姿勢を見せてくれた。参加青年へは、事前にそれぞれの出身国における心の健康を取り巻く状況が分かる写真を準備すること（事前課題1）と、それぞれの出身国における心の健康を向上させるための既存の政策について調べて提出する（事前課題2）という二つの課題を与えた。

初めの2回のセッションでは、様々な種類の精神障害についての理解を深めることに重点を置いた。まずは一般的な精神障害の事例についてのビデオを鑑賞し、その後小グループに分かれてそれぞれの精神障害の違いについて話し合った。3回目のセッションでは、うつ病や不安障害、PTSDなどの精神障害で苦しんでいる人に対してどのような支援をすることができるかということについてのディスカッションを実施した。また事前課題1を活用し、参加青年それぞれの出身国における心の健康に関する問題についても議論することができた。最後の2回のセッションではWHOのメンタルヘルス・アクションプランについて取り上げ、心の健康とウェルビーイングを実現するためには、人と人との良好で密接な繋がりが

がいかに重要であるかということについてのディスカッションを実施した。またこのセッションでは、事前課題2についての発表も行った。その後、小グループに分かれ、WHOメンタルヘルス・アクションプランに対するそれぞれの方策を評価し合った。最後のセッションでは、人と人との良好で親密な繋がりの重要性をより深く実感するための活動を実施した。ハーバード大学の調査研究についても取り上げ、人と人との良好で密接な繋がりが心の健康、幸福、死亡率にどう関わるかについて話し合った。また参加青年たちは船上での自主活動企画の一つとして、事前課題1を活用したポスターを制作し、それを船の2階に掲示することとした。また自主活動の時間には心の健康に関するディスカッションを主催し、他のコースの参加青年やナショナル・リーダー、管理部員など多くの参加を得ることができた。

今回ファシリテーターの一人として選んでいただいた内閣府の皆様には感謝の意を表したい。また、本コースのトピックをコース・ディスカッションのテーマの一つとして取り上げていただいたことにもとても喜びを感じている。ディスカッショングループをまとめるということは決して容易なことではないが、「世界青年の船」事業の管理部の皆様にはコース・ディスカッションの準備から実施に至るまで多大なる御協力をいただくことができた。皆様からのサポートがなければ、この成功を取めることができなかつたであろう。改めて感謝を伝えたい。また今年の参加青年たちは非常に積極的にディスカッ

ションに取り組んでくれた。彼らの多様なバックグラウンド、そして彼らの持つ専門知識には非常に驚かされた。本コースには医療関係者をはじめ、ビジネス、マーケティング、政治・政府、社会・コミュニティや国際関係など、様々な分野の専門家が集まっていた。多様なバックグラウンドを持つグループでのディスカッションをファシリテートすることは困難であるかと思われたが、心の健康に関するディスカッションにおいてそれぞれの専門的な視点からの意見を出し合うことで、結果としてその多様性がグループとしての強みとなった。参加青年はそれぞれのセッションに対して、しっかりと下準備をした上で、熱心に取り組み、全力を尽くしてくれた。おかげで、

互いに多くのことを学んだだけでなく、楽しく有意義なディスカッションとなった。

本コースの準備を通じて私自身も多くのことを学ぶことができた。参加青年とともにそれぞれのセッションを楽しむことができたことはもちろんだが、彼らが社会に変化をもたらそうとする姿、心の健康を取り巻く問題に献身的に取り組もうとする姿に感銘を受けた。参加青年たちはこの「世界青年の船」事業を通じ、今後の社会において主体となって活躍していこうという意識を持ち、またそれを実現していくための力を身に付けることができたと言えるであろう。

6) 平和構築と国際協力コース

ファシリテーター：

参加青年：30名（日本参加青年15名、外国参加青年15名）

1. コース・ディスカッションの概要とねらい

本コースは、平和と紛争や国際制度の概要を理解し、テーマに関する理論的知識と実用的なスキルを習得することを目的としている。5回にわたるセッションでは、講義とグループディスカッション、演習を織り交ぜて実施する。

本コースの終了時に、参加青年は以下のスキルを身に付ける

- ① 国際的な制度を主導しているアクターを理解する
- ② 国際法における文書を把握する
- ③ 様々な平和の定義を区別する

これらに加え、参加青年は以下の活動を実践する

- ① アクティブリスニング
- ② 学びの振り返り
- ③ 感情や想いの振り返り
- ④ 呼吸のアクティビティ（神経学的な自主規制の手法）
- ⑤ 演技のアクティビティ

2. セッション概要

セッション 1: 平和とは何か	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 平和の多面的な概念 ■ スキル構築：リスニングと振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アクティビティ：アクティブリスニングの基礎を学び、二人ペアで実践する（積極的に耳を傾け、聞いた内容とその背景を振り返る） ■ グループワーク：事前課題として行った小論文を小グループで発表し、議論する ■ 講義：事前課題のテーマであった「どのような種類の平和が存在するか」のまとめ
セッション 2: 正義と安全保障	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際関係の最先端の基礎と概要 ■ 国際法における基礎的な手段を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：国家と国際連合について ■ グループディスカッション：主権の限界とは ■ 講義：国際法と人権、国連平和維持活動について ■ グループディスカッション：21世紀における「ブルーヘルメット（国際連合平和維持活動）」の役割とは

セッション 3：調和と真実	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 調和と異なる平和の例を列挙する ■ スキル構築：呼吸のアクティビティ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アクティビティ：指示に従い呼吸をするアクティビティを通じて、自己の内部にある平和を経験する ■ 講義：道教と豊穰祈願を行う宗教団体における平和について ■ グループディスカッション：内的な平和と外的な平和の異なる体験について
セッション 4：応用 紛争転換	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践的な手段への導入 ■ スキル構築：応用の紛争転換 ■ スキル構築：演技を用いたアクティビティ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：紛争転換の導入 ■ アクティビティ：体の活性化 ■ アクティビティ：彫刻 ■ アクティビティ：イメージの完成 ■ アクティビティ：絵画の構築 ■ アクティビティ：イメージの活性化 ■ 紛争転換の様子を演技や身振りを用いて表現することを試みる。アクティビティは以下のような段階を踏む。①ウォームアップと体の活性化を行う②イメージを基に彫刻のように体を止め、静止する③新たな要素を取り入れてイメージを完成させる④絵画をつくる⑤最後にそのイメージに動きを加える
セッション 5：紛争の心理学	
目的とねらい	活動の内容
<ul style="list-style-type: none"> ■ 学びの目的の振り返り ■ スキル構築：演技のアクティビティ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義：セッションの要約と概念の振り返り ■ アクティビティ：「恐れと欲望の虹」一前回のセッションで身に付けた紛争を分析するスキルを実施する。グループごとに恐れや欲望をテーマとした芝居をつくり、その登場人物たちと触れ合い共感することで、紛争を理解するだけでなく、もたらされる結果を変化させることが可能となる。 ■ アクティビティ：コース・ディスカッションの最後に質疑応答や思い、意見の交換をする

3. ファシリテーターのコメント

本コースを運営する上でのねらいの一つは、平和と紛争に関する理論と実践的なスキル双方を織り交ぜた学びを提供することであった。5回にわたるセッション（加えて1月26日実施のコース補講）において、毎回10～15分間のアクティブリスニングというものを行った。このアクティビティでは、参加青年が二人組になり、3分間の中で一人が自由に好きな話題について喋り、もう一人は助言を与えるなどせず最小限の相槌を打つだけで、静かに相手の話に耳を傾ける。3分経過後、聞いていた方の参加青年が1分程度で相手の話していた内容を要約し、聞いた内容を振り返る。第1回から第5回目のセッションでこのアクティビティを行うにつれ、出来事だけでなく思いや感情的な部分を共有できるまでに発展した。話す側と聞く側の役割を交代し、上記の内容を同じように繰り返した。私は参加青年に毎回新しい人と二人組になるように促した。このアクティビティは心理療法の基礎的な手法を基にしており、実際にこのアクティブリスニングを行った参加青年の多くから、他者より深く親密になるきっかけとして素晴らしいものであるという評価を得た。

第1回目のセッションでは冒頭で自己紹介やアクティブリスニングを行い、続けて事前課題の結果報告を行った。この事前課題の内容は、参加青年自身の視点や自国の言語、文化、宗教、法律、または国家に関連付け、平和という概念について考え、書いてまとめるというものだった。事前課題の発表の際、参加青年を五つのグループに分けた。外国参加青年の多くが、起源が共通している言語（peace, paix, paz など）を話す場合が多かったため、各グループに必ず異なる言語（アラビア語、マオリ語、シンハラ語、マサイ／スワヒリ語）を話す参加青年が含まれるよう構成した。小グループでのディスカッションでは、参加青年同士が積極的に意見を交換し、様々な考えを共有していたため、私が計画していたよりも長く、30分ほど時間をかけることにした。グループディスカッションの後、各小グループが全体へ向けてディスカッションの内容を共有した。最後に、私から平和の多面的な解釈の仕方と、英語の「ピース」、日本語の「平和」、アラビア語の「サラーム」それぞれの起源についてスライドを用いて講義し、セッションを終えた。

第2回目のセッションは外的な平和の概念をテーマとし、理論的な学びが中心となった。上記のアクティブリ

スニングの後、前回のセッションで網羅した内容の振り返りを行い、本題に関する参加型の講義に移った。まずは国際連合と1956年に開始された国連平和維持活動について講義し、その後5～6人のグループに分かれ、主権とその限界について議論した。小グループで30分ほど議論した後、全体でのディスカッションに戻った。全体でのディスカッションにおいては、議論が特に活発になり、主権国家に対する賛成・反対双方の視点から様々な声が上がリ、時間切れとなってしまった。そのため、最後に取り扱う予定だった、地域団体や機関の将来の役割については触れずに終わった。

次のセッションは、船上研修の中間ほどで行われたコース補講である。他のセッションと同じく、冒頭にはアクティブリスニングを取り入れた。その後皆で輪をつくり、自由に思いを共有する場を設け、参加青年一人一人が話す機会を持った。話合いの中で多く共有されたことは、英語力の不安や内容を理解できない悩み、そして予想していた学術レベルと実際の差についてなどだった。このように自分が抱える不安を自由に打ち明け、同時に他の参加青年の持つ悩みを知る機会を設けたことに対して、参加青年からは感謝の言葉を得た。

第3回目のセッションのねらいは、平和の内的な要素について、体験を通じて学ぶことであった。アクティブリスニングの後、調和と異なる平和の概念について講義し、実践的な内容へと移った。20分間で二つの呼吸のアクティビティを行ったが、これは腹部からあばら骨、そして胸と上部の3か所にかけて意識する呼吸法である。さらに、鼻孔の片方をつかって息を吸い、もう片方の鼻孔で息を吐き出すという呼吸法も取り入れた。この呼吸法を継続しながら、ジョン・カバット・ジンによる「マインドフルネス瞑想法」を30分間行った。そして、これらを体験した後に考えや印象を共有し、セッションを終了した。このアクティビティについて、何人かの参加青年は心がかなり落ち着き、リラックスできたと話す一方で、このアクティビティの目的が何か分からず、動揺し、不安だったと話す参加青年もいた。このような様々な意見が出たことで、内的または外的に体験される平和そのものについて議論が活発になった。

第4回目のセッションのねらいは、内的な平和と外的な平和の概念を融合させ、紛争状態を転換する応用技術に関する考え方を紹介することであった。アクティブリスニングの後、前回の内容を短時間で復習した上で、紛争転換の概念について講義を行った。まず初めに、前回取り入れた呼吸法の基礎や手法の背景にある生理学について紹介した。その後、主な紛争転換の理論について議論し、アウグスト・ボアールが考案した「シアター・オペラド」とデイビッド・ダイヤモンドによる「シアター・フォー・リビング」という二つ（どちらも芝居による参加型の表現方法）の歴史に触れた。セッションの残りの時間を使い、ボアールが考案した芝居による表現方法を

基に、個人間で起きうる紛争を静止した芝居で表現した。さらに、その静止した状態を、言葉ではなく身振り手振りで変化させることで紛争の転換を表現するよう試みた。このアクティビティを始める際、まずは体を活発化させるため剣を持って戦う様子をスローモーションで表現した。ここでは、参加青年が互いによく観察し合い、理解することが大切である。そして動きを静止させ、その静止状態をほかの参加青年が動かして変化させ、「イメージの完成」という段階へ移り、イメージを様々な角度から解釈する練習をした。最終的に、何人かの参加青年がこの静止した動きに加わり、「世界青年の船」事業において経験した葛藤や困難を芝居によって表現した。このアクティビティは、参加青年にとって将来を異なる視点から思い描き、実現したいものへと変化させる機会となった。セッションの最後には全体でアクティビティに関する意見交換が行われた。

最後のセッションである第5回目は、紛争の心理を大きな議題とし、これまで行った全てのセッションの学びを統合した。

アクティブリスニングを行った後、踊りのアクティビティについて紹介した後、実践に移った。このアクティビティは、ガブリエル・ロスというダンサーによる「ファイブ・リズム・ダンス」を基にしている。私が慎重に選曲した1時間の音楽のプレイリストと共に、参加青年に生命における五つのリズム：1) 流れるように、2) スタッカート、3) 混沌とした、4) 叙情的な、5) 沈黙のリズム、という段階に合わせて踊らせた。このアクティビティを通して、紛争を転換させる手段として紹介すると共に、参加青年がこの「世界青年の船」事業の中で直面した閉塞感を打ち破り、全ての経験を一連の流れとして統合させるという教育的な側面を持っていた。このセッションの最後の1時間は、コース・ディスカッションの締めくくりとして参加青年全員が最後に思いや考えを共有することにあてた。

本コースを運営する上で苦勞した点は、参加青年の期待を汲み取り、言語能力の差に対応しつつ、文化や様々なバックグラウンドの違いに留意するという複数の課題を一度にこなさねばならないことであった。もし2度目の機会が訪れるのであれば、幾つか改善したい部分がある。まず一つ目に、事前課題の二つ目として、参加青年が自国で現在最も重要だと思う平和の問題を選び、発表するという課題を加える。二つ目に、コース・ディスカッションにおける時間管理の感覚をよりつかみ、最終的なセッションの数（日本参加青年に向けた船上研修前の3回のセッション、外国参加青年を含めたコース顔合わせ、コース補講、サマリー・フォーラムを含む）を事前に十分把握することで、全体的な学びを深め、日本参加青年の自信を向上させる手助けができたであろう。最後に、日本参加青年の何人かが教員など教育に携わる仕事をしていたため、一つのセッションの時間を平和教育にあてると思う。